

よろこび

日蓮宗 御聖会

本山 妙顕寺

長香山 本誓寺

『よろこび』四十一

貫首 齊藤 日軌 日蓮

菩提寺と葬儀

菩提寺(ほだいじ)は、その寺の宗旨に帰依して、先祖の菩提を祈る寺つまり供養をしていただくお寺を言います。檀那寺、(だんなでら)は、檀信徒すなわち檀那(メンバー会員)の布施によって運営される寺のことです。その所属する寺に先祖の供養をしてもらいます。最近増えているのが、菩提寺が田舎にあるが、檀家さんが都会に出てそこで死亡するというケースです。葬儀社が僧侶を菩提寺に呼びつけて葬儀を手配したりするので、紹介された僧侶をお願いして葬儀を終えたもの、四十九日、田舎の菩提寺へ納骨の申し込みをする、戒名の付け替えを要求されることが多く、驚くということがあります。これは菩提寺に納骨の申し込みをすることが多く、戒名を受け取りましたため起こります。寺院墓地は、菩提寺が葬儀をして納骨するというルールが多くあります。

菩提寺がある場合には、必ず菩提寺に連絡を取って、確認のもとに僧侶や寺院の紹介を受け菩提寺から戒名を受け葬儀をする必要があります。また葬儀の際には俗名をお願いして、後日菩提寺に戒名をお願いするという方法もあります。



みおしえ

「悪いことをした人は、この世で憂え、来世でも憂え、ふたつのところで共に憂える。かれは、自分の行為が汚れているのを見て、憂え、悩む。善いことをした人は、この世で喜び、来世でも喜び、ふたつのところで共に喜び、かれは、自分の行為が浄(きよ)よ)らかなのを見て、喜び、楽しむ。(中村元訳)」「法句経十五・十六中村元訳)」

仏教は、靈魂の実在と、この世あの世の存在を説いています。人は、自分の行い業に従って、この世あの世のいろいろな境涯に生まれ変わり、死に変わります。之を輪廻転生と言います。人を苦しめたり、悪いことをした人は、この世でも刑務所に入ったり、善い職に就けなかったりします。来世もその罪滅ぼしの為め過酷な環境に生まれたりします。これを罰が当たったと人は言いますが、自業自得なのです。人に尽くし、お寺に貢献するとこの世でも成功し人に賞賛されるようになります。悪いことをした人は、この晴らしい状況に生まれず、悪いことをした人は、この世で憂え、来世でも憂え、善いことをした人は、この世で喜び、来世でも喜び、ふたつのところで共にこの世で喜びます。善いことをするとずっと喜びの生活です。

心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え
悪いことをせず、善いことを
をしよう 喜びのために

